

たのしくあそぶ まちづくりを応援する情報誌「たむたむ」

tam tam

2025.11
VOL. 37

丹波市市民活動支援センター



“民生委員”から考える地域のつながり

民生委員と協力委員、自治会長、福祉委員の交流会

特集

民生委員を見つめ直す

インタビュー

民生委員さんの声

丹波市民生委員児童委員連合会

開田 昇さん

荒樋 昇誠さん

地域の暮らしのそばで、困りごとや不安を抱える人に寄り添い、必要な支援へとつなぐ「民生委員」。100年以上の歴史のある制度ですが、3年を1期として活動する民生委員は、2025年12月1日に一斉改選を迎えます。地域では継続の意思確認、次の委員さんの検討・推薦や引き継ぎなどが話題になっています。

丹波市では委員の約半数が交代予定で新しい体制が始まろうとしています。今回は、地域福祉の最前線である民生委員の現状や課題を通して、「誰一人取り残さない地域づくり」について考えていきます。



▲配られている民生委員の説明資料

地域福祉の最前線

つなぎ役「民生委員」

地域には様々な人々が暮らしています。一人暮らしの高齢者、子育てに悩む保護者、それぞれの理由で働くことが難しい方やその家族、介護を必要とする方、不安を抱えた世帯。こうした気づかれにくいけれど誰かの支えを必要としている方に対して、地域に根ざした支えの目となるのが民生委員・児童委員（以下、民生委員）です。厚生労働大臣から委嘱される特別職の非常勤地方公務員として、丹波市の地域福祉の現場で重要な役割を果たしています。

例えば、高齢者世帯において「最近外出が少ない」「お子さんと離れて暮らし始めて元気がない」といったケースも、民生委員は日常の見守りや声かけを通じて、課題に気づき、相談相手になります。そのほか支援の対象は高齢者に限らず、子育て家庭や障がい・疾病・生活困窮・虐待・非行といった課題を抱える世帯にも、必要な情報の提供や制度・サービスへのつなぎ役として活動しています。「どこに相談したらいいかわからない」「この地域で支え合える人がほしい」と感じるとき、相談・情報提供・連絡通報・調整といった流れを通じて、適切な支援につなげていきます。

民生委員の特徴と役割

こうした支援対象・領域の多様化を背景に、「住民の実態や福祉需要を日常的に把握する社会調査」や「相談」「情報提供」といった7つの活動領域で

活躍しています。丹波市では、約180人の民生委員が委嘱されており、あらゆる暮らしの場面において「誰一人取り残さない地域づくり」を目指しています。

民生委員は「社会奉仕精神に基づく地域ボランティア」であり、活動費はあるものの報酬はありません。民生委員がサポートしているのは、特定の支援対象ではなく「この地域で暮らす全ての人」です。特に支えを必要としているけれど声が届きづらい人、気づかれにくい暮らしの変化を抱える人、地域や制度の間で行きづまる人。そうした人たちを発見し、制度・サービスの地域資源へとつなげるのが、まさにこの役割の核心です。このようにして、民生委員は、自治協議会や地域学校協働活動、福祉団体・学校・保健・医療機関など、多様な関係機関とともに、安心して暮らせる地域を支えています。



高齢化による影響と

次世代の担い手育成のヒント

民生委員の課題の大きなものとして、「担い手確保の難しさ」が挙げられます。丹波市では基本的に自治会から推薦されることで民生委員が決まりますが候補者の推薦がなかなか進まない地域もあります。

2021年の全国調査（文京学院大学）では、『民生委員の担い手確保が難しかった理由（令和元年一斉改選時）』として、特に「地域が高齢化して適任者を探しにくい（71.4%）」「高齢者の就労率が高くなり適任者を探しにくい（73.0%）」が理由として挙げられています。自治会などの役でも同様の理由から担い手不足が叫ばれていますが、この傾向は当分の間変わることはないでしょう。

その他の理由として、「担う役割が重い」「住民の理解が得にくい」などがあります。従来のやり方を続けていては、限られた住民で暮らしやすさを維持していくことがますます難しくなってくると考えられます。

特に、民生委員は、名譽職的な印象が残る一方で、実際は多岐にわたる支援や調整を担う現場の専門家でもあります。そのギャップが、担い手をさらに遠ざけているとも言えます。そのため、民生委員の活動環境の整備を支援する新制度が進められています。ICT活用や協力員制度の強化、学生ボランティアとの協働など、地域の実情に応じた創意工夫が試みられています。それでもなお、地域に根ざした次の世代の担い手づくりは、喫緊の課題です。

インタビュー

民生委員さんの声

丹波市民生委員児童委員連合会

丹波市青垣民生委員児童委員協議会 会長



開田 昇 さん

丹波市春日民生委員児童委員協議会 会長



荒樋 昇誠 さん

「民生委員は、誰でもできる仕事ではある」と語るのは、民生委員歴18年の開田さん。しかし、どんな人でも、人と人との信頼関係が重要です。民生委員になったら、すぐに腹を割って話せるわけではありません。少しずつ住民の皆さんと民生委員としての関係を構築し、やっと相談してもらうことができます。すぐ解決できる相談は多くなく、1期3年では終わらないので、長く支援することになるということです。

同じく民生委員歴18年の荒樋さんは、昔に比べて各家庭へ訪問しづらくなったとのこと。新生児の情報がわからなかったり、同意が得られないこともあります。「協力委員さんから教えてもらったり、高齢者サロンに参加して広報すること」で、

支援が必要な方とつながれるように取り組んでいます」と話されました。

お二人が共通して課題に感じているのは、住民の皆さんに民生委員という役割をあまり理解してもらえないということ。例えば、関係構築に時間がかかること、親族から同意をもらうことが難しいこと、民生委員を輪番制で改選されること、様々な方と連携したいが守秘義務もあり情報の共有ができていないことなどが起きています。複雑化する地域福祉に住民皆さんで理解を深めてもらうことで、大切な担い手である民生委員がさらに活躍できることを目指しています。



守秘義務における、信頼と課題

個人情報保護法が施行された2005年ごろから、情報の管理が強化されました。個人情報情報は適切に取り扱われるべきであり、個人の権利利益の保護と個人情報の有用性のバランスを図る必要があります。民生委員には、民生委員法において、個人の権利を尊重するとともに「厳格な守秘義務」が課されており、信頼の根幹になっています。一方で、行政や関係機関との情報共有においては、この「厳格な守秘義務」が壁をつくる要因にもなっています。

現場で活動する民生委員さんからは「支援に必要な個人情報が得られない」「どこまで踏み込んでよいのか判断が難しい」といった声が寄せられています。プライバシー保護のため、行政側から個人情報を共有しづらいという課題もあります。また、住民から民生委員へ、民生委員から行政へ、必要最低限の情報が渡されるものの、反対方向には情報が渡されず、「情報の一方通行」が生じてしまいやすい構造になっています。結果として情報が返ってこない住民や民生委員は、意欲減退や不信感につながっています。信頼関係に重きを置く地域福祉において、「情報共有ルールの改善」や「連携の明確化」、「役割の整理」が求められています。

この課題を改善するには、日常的な対話の機会を増やし、信頼関係をベースとした協働の仕組みを築くことが欠かせません。民生委員自身も、「連携の明確化」「役割の整理」を望む声を上げています。

地域のつながりを住民で取り戻す

こうした社会状況や課題を背景に、丹波市民生委員児童委員連合会では、一人暮らしの高齢者等が自宅で具合が悪くなった場合、速やかに救急隊員が必要な情報を把握するための「安心カード」を配布しています。カードには、緊急時に必要となる、氏名、性別、住所、電話、生年月日、医療情報、薬剤情報、緊急連絡先などを記載することができます。自身の情報を記入したカードは、保管場所を冷蔵庫に統一し、ハートのシールを冷蔵庫のドアに貼ることで、緊急時に救急隊員や警察官が駆け付けたときに、すぐに正確な情報を知ることができ、スムーズな搬送や処置につなげることができ、また、平時での民生委員の声かけや近所の住民のコミュニケーションのきっかけとしても期待されています。

～記入例～

記入用紙を、電話0795-88-0000

安心カード

1 氏名 丹波 太郎 (男)

2 住所 丹波市 氷上町常楽211番地

3 生年月日 大正 2年 3月 4日

4 電話番号 0795-88-0000

血液型 () () () () () ()

かかりつけの病院は 丹波病院

今からいつの間にか病状は 糖尿病

お薬情報は 処方されたお薬を一紙に書き出して持参してください。

アレルギーは アレルギー 卵 牛乳 小麦 大豆 魚 鶏卵 乳製品 果物 野菜

家族構成 妻 子 孫 兄弟姉妹 同居の親戚 他

緊急連絡先

氏名	電話	住所	本人との関係
丹波 次郎	079-12-0000	神戸市中央区三宮町	子

※ このカード記入用紙の裏面には、緊急時、災害時の対応方法が記載されています。緊急時には必ずお読みください。

▶ 配布されている安心カードの記入例

各地域の民生委員児童委員協議会では月に一度集まり、勉強会や情報共有を実施し、民生委員同士の連携の強化を図っています。さらに自治会長、行政、社会福祉協議会、地域包括支援

センターなど連携先との「交流会」や「情報交換会」も活発に行われるようになりました。お互いの役割や活動の様子を共有することで、災害や相談対応の際には迅速に協働できる関係性を目指しています。また、情報共有に加え、「顔の見える関係」を築くことで、支援の重複や漏れを防ぎ、地域全体で見守る体制づくりにつなげていきます。

民生委員の活動は、制度としてだけでなく、地域の「つながり」を取り戻す営みでもあります。担い手不足や情報の壁といった課題を共有しながら、行政・事業者・住民がそれぞれの立場で支え合う。その輪の広がりこそが、これからの地域福祉を支える力になるのではないでしょうか。



▲ 地域福祉を支える皆さんで共に学び、情報を共有する



丹波市民活動支援センター
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER
<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市民プラザ内
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp
開館時間 10:00 - 18:00(会議室は 21:30 まで) / 毎週月曜日・年末年始休館